

ご挨拶

岐阜県総合医療センター
副院長兼腎臓内科部長

小田 寛



新たな国民病とも呼ばれているのが慢性腎臓病（CKD）です。腎臓は腰のあたりに左右一つずつある握りこぶし大の臓器ですが、血液をろ過して老廃物などを尿として排出していくます。尿にたんぱくが多く出る「たんぱく尿」が認められたり、腎臓の働きが正常の6割未満に低下した状態が続いたりするとCKDと診断されます。国内のCKD患者数は約1330万人といわれ、成人の8人に1人が発症しているわけです。高齢になると腎機能が低下してくるためCKDとなるリスクが高まりますが、一般的には高血圧、糖尿病、慢性腎炎などがCKDのおもな原因となっています。

初期のCKDは症状がないのが特徴で、気づかないまま放置しているうちに病気が進んでしまう人が多いのが実状です。病状が進行すると、夜間に何度もトイレに行く、足がむくんで靴が履きにくい、また倦怠感、息切れなどの症状が現れ、異常に気づきます。しかし腎臓はいつ

ん機能が低下すると、薬などで治療しても正常まで回復させるのが難しく、重症（尿毒症）になると人工透析や腎臓移植が必要です。最近では、腎臓の働きが低下している人は全身の血管の状態も悪いと考えられており、心筋梗塞、脳卒中、末梢血流障害などの発症リスクも高いことが明らかになっています。糖尿病の人もこうした病気を併存することがもともと多いのですが、CKDがあると一層注意が必要です。また高血圧は腎臓に負担を与え、それによって腎機能が低下すると高血圧がさらに悪化するという悪循環をきたします。

それではCKDを早い段階で発見するにはどうすればいいでしょうか。自覚症状があまりないため、健康診断を受け尿検査や血液検査で腎機能を定期的に調べることが大切です。たんぱく尿があるかどうか、血液中の老廃物であるクレアチニンの量が増えていないかなどがポイントで、腎臓の働きがどれほど残っているかはクレアチニン検査の値から計算で求めることができます。

CKDを予防し悪化を防ぐためには、バランスのよい食事をとり肥満に気をつける、塩分を控える、たんぱく質の多い食品を控える、カリウムやリンの摂取を制限する、禁煙する、適度な運動を心がける、糖尿病や高血圧があるときはしっかりと治療することなどが重要です。CKDは誰もがかかりうる身近な病気と考えて、予防と早期発見に気をつけましょう。

当院では、普段通院されている近くのクリニックや病院の先生と連携して患者さんの診療を行っていますが、総合病院のメリットを生かして、腎臓病と関連の深い循環器内科、糖尿病・内分泌内科、心臓血管外科などの診療科とも協力しながらCKD診療に当たっています。皆さ

の健康を守るために当院スタッフ一同は今後も努力してまいりますので、当センターへのご支援をどうかよろしくお願ひいたします。

患者さんの権利と責務

患者さんに次の権利と責務があります。

1. 平等に安全で良質な医療を受ける権利
2. 十分な説明と助言のもとに自分自身の医療を決定する権利
3. セカンドオピニオンを受ける権利
4. 個人のプライバシーが守られる権利
5. 医療従事者と協力して医療に参加する責務

臨床倫理指針

1. 患者さんの人権、意思を尊重し、有益かつ公平な医療を行います。
2. 治療方針の十分な説明と同意に基づいた医療を行います。
3. 患者さんの個人情報を保護し、医療者の守秘義務を遵守します。
4. 治療にかかる法令を遵守し、ガイドラインに準じた医療を行います。
5. 院内の各種委員会（倫理委員会、治験審査委員会、臓器提供委員会など）の審議結果に基づいた医療を行います。

岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

1. 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
2. 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
3. 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
4. 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
5. 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
6. 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

インターフェロンフリー治療の登場でC型肝炎はまさに克服できる時代に

副院長兼消化器内科部長 杉原 潤一

1. インターフェロン治療

C型肝炎に対しては、1992年よりインターフェロン(IFN)治療が広く行われてきました。その後週1回投与のベグインターフェロン製剤が登場し、2004年からベグインターフェロン+リバビリン2剤併用治療が開始されました。これによりSVR率(ウイルス陰性化率)は大きく改善し、難治性であったセロタイプ1型、高ウイルス量例で約50%、セロタイプ2型、高ウイルス量例では約80~90%まで向上しました。ついで経口抗ウイルス剤が開発され、セロタイプ1型、高ウイルス量例に対してベグインターフェロン+リバビリンに加えた3剤併用治療(24週)が可能となり、治療期間が短縮し、SVR率も70~80%にまで向上しました。

2. インターフェロンフリー治療(経口剤のみの治療)

最近になり経口抗ウイルス剤の開発が急速に進み、多くの薬剤が登場してきました。そして2014年9月から待望されていたインターフェロンフリー治療のトップパッターとして、セロタイプ1型に対しダクラタスピル+アスナプレビル(DCV+ASV)併用治療(24週)が開始となりました。代償性肝硬変症も適応で、SVR率は85~90%まで向上しました。しかし、治療前にHCV薬剤耐性変異がみられる場合にはSVR率が低く、さらに治療不成功例となると治療後に多剤耐性変異が出現して以後の治療に支障をきたすことになるため、治療前に薬剤耐性変異の有無を検索して治療開始することが重要です。副作用としては自覚的なものはほとんどありません。その後、ソフォスブビル+レディパスビル(SOF+LDV)併用治療(12週)が登場し、治療期間が半分に短縮しました。SVR率も約95%と極めて高率となり、薬剤耐性変異がみられる例でもSVR率は良好です。ついでオムビタスピル+パリタブレビル(OBV+PTV)併用治療(12週)も可能となり、SVR率はやはり95%程度と極めて高率です。そして昨年12月からエルバスビル+グラゾブレビル併用治療(12週)が登場、さらに本年2月からはダクラタスピル+アスナプレビル+ベクラブビル併用治療(12週)も可能となり、いずれも大いに期待される治療法です。

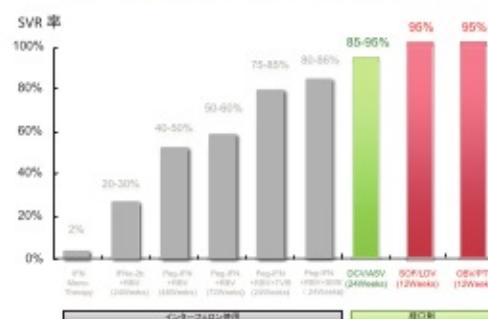
一方、セロタイプ2型に対しては、2015年6月からソフォスブビル+リバビリン併用治療(12週)が開始となり、SVR率は95%程度と極めて高率です。さらに昨年12月からはオムビタスピル+パリタブレビル+リバビリン併用治療(16週)も可能となりました。

3. 岐阜県におけるC型肝炎の治療状況

岐阜県で2008年4月から2016年12月までに医療費助成制度を利用してインターフェロン治療を受けた方は2436人で、70歳以上の方は約14%を占めています。一方、2014年9月から2016年12月までにインターフェロンフリー治療を受けた方は、わずか約2年3か月間ですでに2427人にのぼり、70~79歳の方が約37%、80歳以上の方も約11%で、70歳以上の方が約半数を占めています。今まで高齢で副作用のためインターフェロン治療を受けることができなかつた多くの方が治療されていることがわかります。

最近は専門医療機関が整備され、専門医とかかりつけ医の連携も進んでおり、さらにインターフェロンフリー治療は経口剤治療で副作用も少なく、また治療期間も短くなっています。今までインターフェロン治療を受けたことがない方も、かつてインターフェロン治療で完治できなかった方も、極めて高いSVR率が期待できるインターフェロンフリー治療が可能となった今こそ治療を目指す最大のチャンスと言えます。ぜひ専門医を受診し相談をしていただきたいと思います。

C型肝炎(セロタイプ1)
ウイルス消失率(SVR率)の進歩



乳腺外科の紹介

乳腺外科部長 長尾 育子

乳癌は女性が最もかかりやすい癌で、最近では、日本人女性の12人に1人がかかると言われています。当センターの乳腺外科では、主に乳癌の診断と治療を行っており、年間約150例の乳癌診療を行っています。

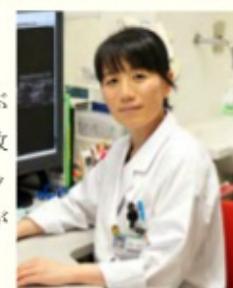
乳癌の診断

乳癌は、早期発見をきちんと治療すれば治る可能性の高い癌です。当院では、マンモグラフィ、超音波検査、乳房造影MRI、造影CT等を駆使し、乳癌の早期発見に努めています。超音波検査で発見された3mm以上の腫瘍や、マンモグラフィで発見された微小な石灰化病変も、的確に採取して病理検査を行うことができます。

乳癌の治療

乳癌にはいろいろな種類があり、タイプによって治療も異なります。病理検査で乳癌の特徴を調べ、最も有効な治療方法を選択することが大切です。手術治療では、乳房の全切除が必要な場合、形成外科との連携による同時乳房再建を積極的にすすめています。他に、術前化学療法で腫瘍を縮小してから小さい手術を行うなど、乳房の整容性を重んじた治療を大切にしています。

乳癌は治療経過が長いのが特徴で、術後治療が10年以上、再発治療が20年に及ぶこともあります。今後はさらに院内の各専門科や窓口(乳腺外科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、外来化学療法センター、がん相談等)と、院外の病院やクリニックとの連携を強めることにより、患者さんに乳がんの治療をしながら充実した人生が送っていただけるよう、スタッフ一同努力を重ねていきます。



臨床工学部の紹介

みなさん、臨床工学技士という職種をご存知でしょうか？

臨床工学技士は医療機器の専門医療職で臨床検査技師、診療放射線技師とならぶ国家資格です。

岐阜県総合医療センターでは診療支援部門の一つとして臨床工学部が置かれ、医師1名と臨床工学技士19名が配属されています。

臨床工学技士は医師、看護師、各種医療従事者とチームを組んで人工呼吸器をはじめ、高度な生命維持装置の操作などを担当しています。また、医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・管理を行っており、安全性の確保と有効性の維持に貢献しています。

「AED」という言葉、みなさん聞いたことがありますでしょうか？

AEDとは、日本語では自動体外式除細動器といい、「心室細動」という脳をはじめ全身に血液を送れなくなる重い不整脈の患者の方に電気ショックを与えて救命する装置です。

以前は医師、救急救命士などに使用が限られていたましたが、2004年7月からは一般市民の方も使用できるようになり、最近では公共施設をはじめ多くの場所に設置が進んでいます。

岐阜県総合医療センターには25台のAEDが設置されています。臨床工学技士はその管理も行ないながら、院内での教育、さらには地域貢献活動として、市民向け救急蘇生研修にも積極的に参加しております。

個人から家庭、さらには地域へと「いのちの輪」を広げていき、地域全体の救命率向上を目指しています。

臨床工学技士は、医療機器のスペシャリストです。



当センターの母乳育児について

当センターは2015年に「赤ちゃんにやさしい病院」に認定されました。

「赤ちゃんにやさしい病院」とはWHO・ユニセフが掲げる「母乳育児を成功させるための10カ条」を守り、実践する産科施設として認定された施設になります。「母乳育児を成功させるための10カ条」を守るため、職員は当センターの母乳育児支援の方針に沿って日々活動しています。

妊娠中は母乳育児のメリットを説明し、母乳育児の方法を知っていただけるように支援しています。出産後は早期からお母さんと赤ちゃんのスキンシップを行っています。分娩当日から母子同室を行うことで、いつでも授乳できる環境を整えています。当センターは総合周産期母子医療センターであるため、ハイリスク妊娠・出産の患者さんもいらっしゃいます。赤ちゃんが新生児センターに入院となり、お母さんと赤ちゃんと一緒に過ごせない方もみえます。出産後すぐに母乳育児ができない場合でも、母乳育児が続けられるよう搾乳のサポートをしています。新生児センターではご両親が自由に面会でき、赤ちゃんの状態が落ちついた時期には、お母さんが母乳を与えることができるようになっています。

母乳育児を続けていくためには、お母さん自身はもちろんですが、家族のサポートが大切です。赤ちゃんやお母さんはもちろんですが、家族の方にとってもやさしい病院となればと思っています。



看護部からの お知らせ

認定看護師を紹介します。



緩和ケア認定看護師
信田 直美

私は緩和ケア認定看護師になって2年目を迎えようとしています。緩和ケアとは病気に伴う心と体の痛みを和らげることを言います。現在は、様々なながん患者さんの身体のケアや治療方法・療養の場選択など意思決定を支え、不安や落ち込みなど心の負担が和らぐよう関わり続けています。その人の最期の瞬間まで寄り添い、今できることを支え、患者さんやご家族とできる喜びを分かち合いたいと願っています。

高齢化に伴い心不全を抱えながら地域で生活している方が多く見えます。心不全で入院される1番の原因是、生活習慣によるものです。心不全で苦しい症状が出てしまう前に予防し、患者さんがよりよい生活ができるように、共に考え、サポートしていけたらと思っています。現在「心不全看護外来」の開設に向け取り組んでいます。より地域の方に密着した看護を提供していくよう努めていきたいと思います。



慢性心不全看護
認定看護師
糸島 啓太

こんにちは栄養管理部です



今年2017年の岐阜は年明けより急激に寒くなりました。

春は厳しい寒さが終わり暖かくなる時期であると同時に、新年度の始まりなど環境が変わり慌しい時期でもあります。体調を崩しやすい時期のためしっかりと食事、栄養をとれると良いですね。

今回は春にオススメの食材を紹介します。

消化が良い



春が旬の魚。
高たんぱく質低脂肪
で消化が良いです。
骨にはご注意を。



春と秋の2回旬があり、春のものは肉質がやわらかいです。

ビタミンなどが豊富



自然栽培では春ごろが旬となり、ビタミンCが豊富です。



収穫期です。
よくアツを抜きましょう。天ぷらがオススメです。

春を感じる食材



独特的の香りがあります。
食べ過ぎは健康を害する可能性があるのでご注意ください。



春に土から頭を出します。
下ごしらえからする場合は米のとき汁などによくアツを抜きましょう。



春の一品～鯛の桜汁～

- ・マダイ（日本酒をかけて焼くか蒸しておくと生臭みが抑えられます。）
- ・みつば
- ・桜の塩漬け 一輪（よく水に漬けて塩抜きをしましょう。）
- ・薄口しょうゆ（桜に塩味があるので普段より薄めの味付けで。）
- ・だし汁

※当院で毎年春に実施している行事食のアレンジレシピです。

気温の変化は食欲や新陳代謝にも影響を及ぼします。健康のために食事はもちろん、春のうららかな日差しの中花見も兼ねてウォーキングなど軽い運動もしてみてはいかがでしょうか。

当院近辺では梅の時期は梅林公園、桜の時期は野一色公園がオススメですよ。



広報紙「けんこう」第34号をお届けします。

取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

岐阜県総合医療センター 広報委員会

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805
Eメールアドレス info@ifu-hp.jp
ホームページアドレス <http://www.gifu-hp.jp>



この印刷物は環境にやさしい
大豆油インクを使用しています。